

## プログラム18

バナナについて考えよう（環境保全活動）

### 目的

- ・ バナナ生産の現実を知る。
- ・ バナナ生産をめぐる問題を知ること  
で、私たちの生活とのつながりを認識  
し、世界の環境を保全するための取り  
組みについて考える。



### 概要

バナナ生産者のようすが描かれた子ども向けの短編を読み、自分たちで問題点を見出し、問題点の間のつながりを明確にすることを通して、自分たち日本の消費者との関わりを理解し、私たちの生活様式を見直したり、問題解決に向けての行動について考えたりする。

### 対象

小学生から大人まで（人数は10名程度以上）。

### 実施時期

いつでも実施可能。

フェアトレードによって輸入されているバナナ（フェアトレードバナナ）が入手できるとなおよい。

※フェアトレード（公正貿易）とは、開発途上国などでの生産者の経済的・社会的自立や過剰な生産による環境負荷の低減など持続可能な社会づくりを目指して、ただ資金的援助をするのではなく適正な価格で商品取引を継続する、買い物を通じた身近な国際協力のこと。



フィリピン・ミンダナオ島で生産されている  
バラゴン・バナナ（フェアトレードバナナ）

### 所要時間

3時間程度

### 準備物

### <読む～発表>

- ・ 「アジアの子ども」(アジア保健研修財団「アジアの子ども」編集委員会編集、明石書店)  
(富山県立図書館、富山市立図書館、高岡市立中央図書館などに蔵書がある。)
- ・ 付箋紙(ポストイットなど名刺大程度のもの。100枚綴りをグループ数分)
- ・ フェルトペン(裏うつりしにくい、8色程度のセットをグループ数分)
- ・ 模造紙(グループ数×2枚)

### <試食>

- ・ ふつうに購入できるバナナと、できればフェアトレードバナナ  
(フェアトレードバナナの購入は、「ふおるくろーれ」(富山市越前町3-1  
電話076-420-7646)などに問い合わせる。)

### <振り返り>

- ・ 振り返りシート(参加者数分)

## 内容

### <「アジアの子ども」を読む>

- ・ 参加者を5名程度のグループに分ける。この際、大人と子どもを別々にグループ分けすると、年齢による発想の違いがよくわかっておもしろい。
- ・ みんなで「アジアの子ども」のうち「バナナのお話ーフィリピン」を読む。
- ・ 何人かに簡単に感想を聞く。

### <問題の発掘・分析>

- ・ 各グループに、付箋紙、フェルトペン1セットを配布する。参加者は、自分の好きな色のペンを一つ選ぶ。
- ・ 問題発掘：ブレインストーミング  
各グループで、「バナナのお話」の中で問題だと思われることがらを、一枚の付箋紙に一つずつ書き出す(問題の数だけの付箋紙が使われることになる)。書く際には、問題点を簡潔にフェルトペンを用いて書く。複合している問題は一つずつに分けて書くようにする(例えば「お金がないので、病院に行けない」は、「お金がない」と「病院に行けない」の2つに分けて書く)。できるだけたくさん出す。書いた人は、グループのみんなにわかるように読み上げて、テーブルの中央に置く。
- ・ 問題分析：マッピング  
出てきた問題点は多くは因果関係を持っているので、各グループで模造紙の上で、因果関係がわかるように付箋紙を並べる。同じような付箋紙をまとめて丸で囲んだり、付箋紙間を矢印で結んだりして、なるべく関係がわかりやすくなるように、グループのメンバーみんなが相談して並べる。みんなが意見を言えるような雰囲気作りが大切。
- ・ フェルトペンを使ってわかりやすく説明や絵を加えてもよい。

### <アクションプラン作り>

- ・ 問題点やその関係性が明らかになったら、そのなかで、自分たちが何らかの取り組み(フェアトレードの商品を購入する、バナナについてもっと調べてみる(本やインターネット

で、実際に現地へ行って)、バナナについて知ったことを周囲の人に伝える、生産者に農薬の影響害を知らせる活動をする、国際協力活動に参加する、など)をすれば少しでもよりよい状況にできるような問題を見つけ出す。

- ・ 具体的に、それぞれのグループで何かできる取り組み(アクションプラン)を作り上げる。

アクションプランに必要な要素は概ね以下の通りで、

アクションプランの名前：

誰を相手に：

いつ：

どこで：

どのようなことを：

について、具体的に作り上げる。

- ・ アクションプランを模造紙に、わかりやすく書き上げる。

<発表>

- ・ それぞれのグループから、問題の分析結果とアクションプランを、模造紙をみんなに見せながら発表する。

<バナナ試食>

- ・ ふつうに売られているバナナとフェアトレードバナナを食べてみる。

<振り返り>

- ・ 今日の活動で気付いたことなどを、各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどを、みんなで発表しあう。

## 安全対策と配慮事項

- ・ 実施時間が長い場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

## 展開や応用

- ・ スーパーなどの店舗で、いろいろな食品がどこから輸入されているのかを調べてみる。(プログラム17「エビはどこからやってくる」などが活用できる。)
- ・ 他の輸入食品(カカオ、コーヒー、パーム油など)についても、同様の問題点(健康影響、森林破壊など)があるかどうか調べてみる。

## プログラム提供団体

団体名・担当者名 とやま国際理解教育研究会 定村 誠

住所 富山市吉作117 大栄ハイツ3-206

電話番号 076-434-095

電子メール keh00171@nifty.com

ホームページ [http://www.geocities.jp/tie\\_toyama/](http://www.geocities.jp/tie_toyama/)

団体の概要 とやま国際理解教育研究会（TIE）は、「地球規模で考え、地域で行動しよう（Think globally, act locally）」を实践する市民団体です。1996年発足以来、公正で持続可能な、地球社会・地域社会づくりをめざす仲間が集い、活動しています。ワークショップ（参加体験型学習）の進行役であるファシリテーターを育成し、地域の中で「参加型の学び」を発展させていくことを目的としています。